

科目	成人看護演習				
時間数	1単位 30時間	授業方法	講義、演習	授業時期	2年
講師名	③弓山彩子 ③伊藤純子 補助(③河本さやか)				
実務経験	③看護師(医療機関)				
ねらい	侵襲的な治療を受ける患者の生命を守るために必要な処置や看護について、状況を様々に仮定したシミュレーションを行い臨床判断能力を養う。周術期の患者に対する処置は、医療従事者の協働と継続看護が必要で、生体機能の回復を促し、回復状態に合わせた看護が展開できる。急性期・回復期・慢性期・終末期にある患者と家族に対する看護の在り方を考える。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習記録を用いて、ペーパーペーシエントのアセスメントから看護計画を立案し、看護過程の展開方法を理解することができる。 2. 各健康レベルに特徴的な看護問題とその原因、標準的な看護目標、看護計画がわかる。 3. 手術を受ける患者の看護過程の展開では、実習での事例を用いた患者の看護をシミュレーションを通して理解できる。 				
授業計画					
回	内容				
1～3	手術を受ける患者の看護過程の展開 事例提示、看護計画、行動計画立案				
4、5	臨床指導者が患者役となり、術後患者の看護を演習後、デブリーフィング				
6～8	慢性期にある患者の看護の展開 事例提示、看護を考える				
9、10	演習				
11～13	終末期にある患者の看護の展開 事例提示、看護を考える				
14、15	演習				
評価方法	その時間数の3分の2以上の出席者に限り受験資格を与える。 各講師が各々の担当領域について演習課題及び平素の学習状況を総合して100点満点で評価する。 60点以上を及第点とする。				
教科書	成人看護学総論:医学書院 臨床外科看護総論:医学書院				